

防災教育チャレンジプラン 年間予定表

令和4年4月1日

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	その他	
4月	学習計画／係分担確認							
5月	写生会 4/25 (月)		総合 6/29 (水) 東京消防庁公式 アプリの使い方			AED講習会 6/7(火)		
6月	生活科 町たんけん 公園にある防災			理科 「雨水の流れ」	6/10 (金) 防災訓練			
7月	生活科 マイタイムラインを 使った学習				荒川知水館見学		避難所連絡会① ○一斉下校訓練 7/13 (水)	
7月	東京防災・防災ノートを活用した授業の実践							
夏季休業中	マイタイムライン 親子で作成・提出						図工 防災ポスターコンクール	一之江防災チャレンジ (避難所連絡会②) 8/24 (水)
9月	9 / 10 (土) 学校公開防災授業 講演会							○引き渡し訓練 9/2 (金)
10月						理科 大地のつくりと変化		
11月		生活科 町の防災安全を知ろう	社会科 火事から町を守る仕事			国語 自分の考えを発信しよう	※学習発表で行った授業 については、p24以降に 掲載しています。	
11月	11 / 18 (金) 19 (土) ・学習発表会 防災に関する授業の発表							
12月			本所防災館見学 社会科 防災マップ作成	社会科 「水害から暮らしを守る」			○一斉下校訓練 12/14 (水)	
1月			防災マップ発表会		理科 「流れる水のはたらき」			
2月					社会科 「自然災害を防ぐ」			

防災教育実践報告

日 時 令和4年7月6日
 2. 3校時
 対 象 第1学年
 会 場 一之江3丁目公園
 授業者 小池 朋子
 馬木 智子
 近藤日香里

1 主題名 みんなのこうえんであそぼう 【教科：生活科】

2 ねらい

- ・公園は、いろいろな人が使う場所であることや利用方法や決まりがあることを知りルールを守って遊べる力を培う。
- ・新中川の見学を通して、防災意識を高める。

3 指導略案

主な学習活動	・指導上の留意点等、児童の気付き発言等
(事前指導) 6月：避難訓練 地震による津波警報発令 校舎の高い所に避難する。	・一之江小学校の周りには、たくさんの川が流れていること周知し、津波が起こりやすい地域であることを認識させる。 C:家の周りには、新中川や荒川、江戸川がある。 C:川の水が増えると水があふれる。
1. 校庭へ集合・整列 【持ち物】校帽・水筒 2. 引率の保護者の方の紹介 3. 注意事項の確認 (道路の歩き方、学習のめあて) 4. 学校出発 ○一之江三丁目公園 ○新中川の土手 ※クラスごとに公園内と土手を散策 5. 帰校 引率の保護者の方へ挨拶をして教室へ戻る。	・事前に保護者に引率を依頼し、安全に校外学習を実施できるよう配慮する。 ・事前に道路の安全な歩き方や校外での過ごし方、感染症予防のためのマスクの着用について指導し、安全に気を付けて行動できるようにする。 ・途中で水分補給の時間を設け、児童の体調を管理する。 ○公園や土手で見つける。 ○公園や土手で見つけた、防災に関するものを伝え合い、防災の意識を高める。 C:遊具の場所と広場がある。 C:倉庫がある。 C:倉庫の中には、何が入っているんだろう。 C:階段の向こうに新中川だよ。 C:川の向こう側にある浮き輪は、何に使うのかな？
(事後指導) 7月：避難訓練 台風警報発令による集団下校訓練	・東京マイ・タイムラインを活用して、風水害について知る。

防災教育実践報告



日 時 令和4年6月14日
 1, 2校時
 対 象 第2学年
 会 場 校外(一之江の町)
 授業者 関口 敏子
 高須 彩乃
 松下 佑奈

1 主題名 どきどきわくわく町たんけん 【教科：生活科】

2 ねらい

- ・自分たちの暮らす地域にはどのような施設や場所があるかを知り、地域の施設や場所に親しみをもつ。
- ・安全や防災についての標識や施設、設備にも目を向け、安心して生活するための工夫に気付くことができる。

3 指導略案

主な学習活動	・指導上の留意点等、 児童の気付き発言等
<p>1. 校庭へ集合・整列 《持ち物》校帽・水筒・探検ボード・カード</p> <p>2. 引率の保護者の方紹介・挨拶</p> <p>3. 注意事項の確認 (道路の歩き方・学習のめあて)</p> <p>4. 学校出発 各コースにわかれ、探検をする。</p> <p>○赤コース (関口) 児童27名・保護者10名 なんぶ広場・一之江第一保育園・土手・共育プラザ・親水公園・3丁目公園 など</p> <p>○ピンク・オレンジコース (松下) 児童27名・保護者6名 ヤマイチ・妙音寺・畑・抹香亭・環七・親水公園ジャブジャブ池・一之江コミュニティー会館・2丁目公園 など</p> <p>○水色コース (高須) 児童29名・保護者8名 白髭神社・フレンド公園・ビニルハウス・畑・野菜の自動販売機・駅前・卵の自販機・みなもと幼稚園・信用金庫・茶畑青果店 など</p> <p>5. 帰校 到着したグループから挨拶をして教室へ戻る。</p>	<p>・保護者に引率を依頼し、安全に探検を実施できるよう配慮する。</p> <p>・事前に道路の安全な歩き方や校外での過ごし方、感染予防のためのマスクの着用などについて指導し、安全に気をつけて行動できるようにする。</p> <p>○赤コースで見つけた防災設備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災井戸 ・なんぶ広場 (防災公園) ・防災トイレ  <p>○ピンク・オレンジコースで見つけた防災設備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親水公園 (防災備蓄倉庫)  <p>○水色コースで見つけた防災設備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フレンド公園 (防災公園) ・防災井戸 ・中央はなみずき公園 (防災公園) ・防災倉庫 <p>・スマイルネクストのノート機能を活用して、探検したコースのおすすめの場所や施設、みんなに伝えたいことなどを写真と文で表す。</p>



防災教育実践報告

日 時 令和4年6月29日
5校時
対 象 第3学年
会 場 体育館
授業者 新井 沙紀
長田 周
山田 千裕

1 主題名 「東京消防庁公式アプリのつかいかた」 【教科：社会科】

2 ねらい

- ・消防士さんに実際に話をしてもらい、消防への意識を高める。
- ・アプリの活用を通して、消防の仕事について知る。

学習活動	指導上の留意点
<p>1 あいさつ GT 紹介 江戸川消防署 大塚昌夫さん 虎井久美さん</p> <p>2 動画で、「消防署士の1日」を視聴する。</p> <p>3 消防士さんから動画の解説を聞く。 ・アプリを活用する 「東京消防庁」→「リンク」をタップ→ 「電子学習室」→「消防のお仕事」</p> <p>4 消防の仕事の話を聞く。 ・大きく3つあることを知る ①火を消す ②命を救う ③災害を防ぐ</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">消防の仕事キーワード</p> <p>◇交代制勤務、毎日勤務、仕事の様子、階級、施設 ◇消防車の役割・つくりについて ◇救急車の役割・つくりについて ◇はしご車の役割・つくりについて知る ◇38秒に1回救急車は出動している。 ◇#7119（救急相談センター）</p> <p>5 アプリ内の「消防の仕事」テストをする。</p> <p>6 あいさつ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットで「東京消防庁公式アプリ」を開く。 ・解説を聞きながら、タブレットを操作する。 <div style="text-align: center;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・全員で問題について考える。 <div style="text-align: center;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・アプリテストの答え合わせを通して、意見を出し合い、消防の仕事をもっと正しく知るとともに、防災、消防への意識を高める。

防災教育実践報告

日 時 令和4年6月30日
 5・6校時
 対 象 第4学年1組
 会 場 4年1組教室
 授業者 境澤 幸倫

1 主題名 自然の中の水のゆくえ（1）地面を流れる水のゆくえ 【教科：理 科】

2 ねらいと教材

(1) ねらい


- ・粒の大きさと水のしみこみ方の違いを調べる実験を、条件制御しながら行い、結果をわかりやすく記録する。
- ・水のしみこみ方は、土の粒の大きさによって違いがあることを理解する。

(2) 教材

- ・わくわく理科4『啓林館』

3 指導略案

(1) 展開

時間	主な学習活動	・指導上の留意点等、児童の気付き発言等
導入 10分	1. 粒の大きさの違いを調べる。 ・畑の土は、小さい粒が多い。 ・砂場の砂は、いろいろな大きさの粒が混じっているね。 ・砂利は大きい粒がたくさんある。	・実際の触り心地やルーペを使って大きさを比べる。
展開 70分	土の種類と水のしみこみ方には、どんな関係があるのだろうか。 2. 水のしみこみ方について、予想する。 ・畑の土は小さい粒だからしみこんでいかないかも。 ・大きい粒がたくさんあると、水がしみこんでいくと思う。 3. 水のしみこみ方の違いを調べる実験装置をつくって、調べる。 4. 実験の結果を整理する。 ・畑の土→しみこむのに時間がかかった。 ・砂場の砂→水を注いでいる途中から、にごった水が出てきた。 ・砂 利→すぐに水が下へ。短い時間で水が出終わった。 5. 結果と関係付けて、結論をまとめる。	・粒の大きさによって、水のしみこみ方に違いがあるか考えさせる。  ・実験の結果を表にまとめる。 ・水の量の減り方に着目させる。
終末 10分	土のつぶの大きさが大きくなるほど、土に水がしみこみやすくなる。 6. 地面にしみこんだりする水は、ときに、災害を起こすことを知る。	・水がしみこんだ土地での災害について、タブレットで動画を見る。

本所防災館見学

日 時 令和4年12月6日
対 象 第3学年

社会科見学として、「本所防災館」の見学をしました。防災館（都民防災教育センター）は、東京消防庁が運営し、「池袋」「立川」「本所」の3カ所にあります。都民が安全に暮らせるように、楽しみながら地震の揺れの体験、初期消火や応急救護、火災の煙からの避難要領など、防災に関する知識や技術を学ぶことができる体験施設です。



水害のエリア

扉の前に水が溜まっていることを想定して、扉を開けるのにどのくらいの力が必要かを体験しました。水の量を10cm、20cm、30cmと変えて、一人一人が扉を押す体験を通して、手ごたえが全然違ってくることに気付きました。



火事のエリア

煙部屋や、消火器を用いた消火活動の体験をしました。煙部屋では、煙は上にいくので、姿勢を低くして移動をすると良いことに実践を通して気付きました。消火活動では、消火器の持ち方や使い方を教えていただいた後に、火事を想定した映像に消火器で放水する経験をしました。



地震のエリア

地震の際の身の守り方を、地震マシンの体験を通して学びました。震度5を超える、大きな地震を実際に体験し、地震の怖さや、身の守り方の大切さを理解しました。体験の後には、非常用袋の用意や、地域や学校での避難訓練の大切さも学びました。



防災教育実践報告

日 時 令和4年6月10日
 1、2校時
 対 象 第5学年1、2組
 会 場 校庭
 指導者 上田 功司
 高橋 淳子
 瑞江消防署
 瑞江第八分団




1 主題名 防災体験学習【行事】

2 ねらい

- ・災害発生時の疑似体験や初期対応の訓練をすることで、災害の恐ろしさを知り、身を守ることができるようにする。
- ・地域の方の活動や地域の方から見守られていることを知り、自分も地域の一員である自覚をもてるようにする。

3 指導略案

(1) 展開

時間	主な学習活動	・指導上の留意点等、児童の気付き発言等
導入 5分	1. 校長先生の話聞く。 2. 消防署員の方の話聞く。	・活動のねらいを意識させる。また、活動の見通しをもたせ、主体性を高める。 
展開 80分	3. 4グループに分かれ、ローテーションして体験学習を行う。 ①起震車体験 ・巨大地震の揺れを体験し、地震時の身の守り方を知る。 ②煙体験 ・煙が充満したハウス内の歩行を体験し、火災時の避難の仕方を知る。 ③消火器訓練 ・火災を発見してから消火器を使うまで、一連の流れを体験する。 ④通報訓練 ・119番通報の体験を通して、火災や事故に遭遇したときに通報で伝える内容や伝え方について知る。	・授業者とPTAのボランティアで分担し、場の安全を図る。 ・健康や心理面で不安のある児童について配慮する。 ①起震車体験 「予想以上に揺れて強かったけど、身の守り方が分かった。体験できてよかった。」  ②煙体験 「炎だけでなく、煙も怖いことを知った。低い姿勢になり、煙を吸い込まないようにした。」  ③消火器訓練 「消火器の使い方が分かった。いざというときに慌てないで使えるようになりたい。」  ④通報訓練 「通報するときに伝えればよいことが分かった。最初は緊張して、うまく言えなかった。」 
終末 5分	4. 消防署員の方の話聞き、お礼の言葉を伝える。 5. 防災体験学習について振り返る。	・地域の方の活動に対する感謝の思いをもたせるとともに、自分も地域の一員として今回学んだことを生かせるように学習を振り返る。

荒川知水資料館見学

日 時 令和4年6月2日
対 象 第5学年

理科見学として、「荒川知水資料館」を見学しました。荒川のことを知り、学ぶための資料館で、荒川をはじめ、川や水について広く“知”る場所という意味で、“治”水ではなく、“知”水となっています。新しい荒川に出会う1階、荒川を知る2階、荒川を見守る3階の3つのフロアに展示物が置かれ、周辺の岩淵水門や水位標柱などを見学することもできます。



新しい荒川に出会う

荒川流域の航空写真が床一面に広がっていて、資料館や自宅の位置などを確認しました。荒川の大きさや流域の様子について視覚的に捉え、驚く子供たちの様子が見られました。



荒川を知る

荒川下流域の水害リスクについて、プロジェクションマッピングで知りました。大雨により、葛西駅や小岩駅など、身近な場所が浸水していく様子を見て、子供たちは水害の恐ろしさや地域の危険性を実感していました。



荒川を見守る

荒川流水模型のコーナーでは、実際に荒川の模型に水を流すことで、堤防や水門の役割について分かりやすく知ることができました。岩淵水門が大水の侵入を防いでいることを知り、子供たちは治水対策に感心していました。





周辺施設

実際に見学し、岩淵水門や旧岩淵水門の迫力を感じていました。資料館で学んだことと結び付け、荒川のことについて考える様子が見られました。

防災教育実践報告

日 時 令和4年6月27日
 対 象 第6学年1, 2, 3組
 会 場 各教室
 指導者 上田 内田 雅之
 古野日香里
 渋谷 将男

- 1 主題 総合「パンフレットで知らせよう」
- 2 ねらい 相手や目的に応じて内容や構成を考え、一人一人が防災に関する自分のテーマのパンフレットを作り、発表を通し防災への意識や知識を深める。
- 3 指導展開

学習活動	指導上の留意点
<p>1 国語「地域の防災について話し合おう」の学習を想起し、自分の立場やテーマ、伝える相手をあらためて決める。</p> <p>【テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練をさらに充実させる ・災害に備えた準備をする ・過去の歴史から学ぶ ・災害が発生するしくみを紹介する ・どのような設備があるのか知る <p>2 パネルディスカッションの際に活用した資料に加えて、必要な情報をiPadでさらに集め、個人で詳しく調べる。</p> <p>3 テーマごとにグループを作って構成などを話し合い、ページ内容の分担をする。</p> <p>4 プレゼンテーションソフトを活用して、パンフレットづくりの作業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知らせる目的や読む人のことを考えて、各分量や内容を決める。 ・文章だけでは伝わりにくいところは、図表や写真、絵などを入れて、わかりやすくする。 <p>5 グループごとにTeams内のフォルダにページを集約し、完成したパンフレットを印刷する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までのパネルディスカッションをふりかえり、個々の課題などを挙げていく。 ・伝える相手や目的を明確にし、その際、家庭や地域に向けての内容か、児童に向けての内容か、相手も具体的に定めるようにする。 ・パワーポイントで文章や画像をつくりながら参考資料等の出典を明らかにする。 <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・友達が作ったパンフレット発表を聞き、防災に関する意識や知識を深める。

- ◇ 児童の感想から 「備蓄品には、知らなかったものも多くあり、家でも用意したいと思った。」
 「自分の住んでいる地域の避難場所と経路を確認できてよかった。」

図画工作科の取組

図画工作科では、絵を描くことを通して、「防災に関心をもつ」ことを目的として写生会やポスター作製に取り組ましました。

「はたらく消防写生会」(1、2年生)については、「消防署との連携」(p6)で紹介しましたので、ここでは「防災ポスターコンクール」(6年生)について紹介します。

6年生84名が内閣府主催の「第38回 防災ポスターコンクール」に取り組ましました。1学期に取り組んできた防災について振り返り、自分のテーマを決めました。基本的なポスターの描き方や、ワークシートを作成して、夏休みをつかって取り組ましました。

災害ポスターのかき方	
年 組 名前	
ポスターをかくときを考えること	
①伝えたいことや自分が考えたこと(一番大事)	
<ul style="list-style-type: none"> この段階では絵でなくてもいいです。 できるだけ前向きな考え 	
②言葉(キャッチコピー)と絵を考える	
言葉:	
絵:	
例)水があふれている様子(言葉でかく)	
③主役を決める	
<ul style="list-style-type: none"> 主役は大きく 主役は文字でも絵でもよい。 	
④自分の考えが伝わる画面に絵と文字の入れ方を考える	
<ul style="list-style-type: none"> タテ、ヨコを考える。 普通に入れにくい(重ねたり、斜めにしたり) 	
⑤文字は太く、はっきり	あ→□ ああ

児童の作品



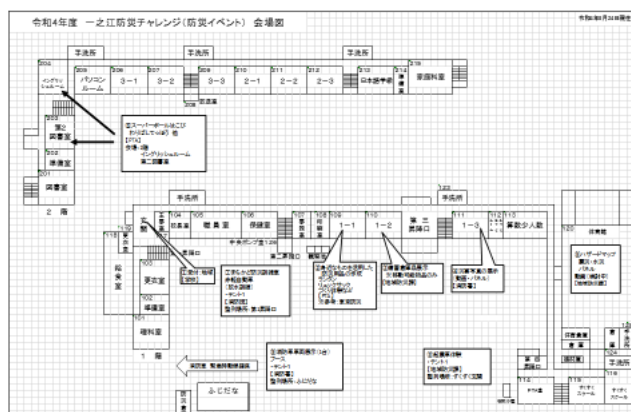
一之江防災チャレンジ(防災イベント)

1 実施日 令和4年8月24日 13:30~15:30

夏休みの最終日に行いました。

2 実施方法

校舎内、校庭、体育館、学校全体を会場にしてスタンプラリー形式で回ります。



	内容(ないうよう)	場所(ばしょ)
①	スタート	玄関前(げんかんまえ)
②	みちか かつよう ぼうさいようひん さくせい 身近なものを活用した防災用品の作成	1年1組
③	備蓄倉庫品展示(びちくそうこひんでんじ)	1年2組
④	災害写真(さいがいがいしゃしん)の展示(てんじ)	1年3組
⑤	ハザードマップ 震災(しんさい)・防災水災(ぼうさいすいさい)パネル	体育館 (たいいくかん)
⑥	スーパーボール運(はこ)び わりばしてっぽう など	イングリッシュルーム 第二図書室 (だいにとしよしつ)
⑦	まちかど防災訓練(ぼうさいくんれん)	校庭(こうてい)
⑧	起震車体験(きしんしゃたいけん)	校庭(こうてい)
⑨	消防車展示(しょうぼうしゃてんじ)	校庭(こうてい)

3 協力団体

・江戸川消防署 ・江戸川区役所地域防災課 ・消防団 ・PTA

4 内容紹介

① スタート(受付)

- ・PTA、町会、6年児童、職員が担当
- ・参加賞
区役所 非常食クラッカー
ポケットティッシュ
パンフレット
消防署 グッズ(消防署ブース)
PTA 除菌シート
- ・6年生はボランティアとして運営も参加

② 身近なものを活用した防災用品の作成
【学校 PTA】

リュックサックの作り方



5 開催を通して

- ・ 防災へのより一層の理解促進
- ・ 児童の避難所運営への参画
- ・ 消防署、区役所、地域、PTA との連携



「いざ！」という時のために・・・

- ・ 防災への意識を高めた。
- ・ 具体的な行動も知った。
- ・ 連携を確認できた。

9月10日(土)学校公開・防災講演

【時間割】

江戸川区では、毎学期の土曜日に学校公開を行っています。コロナ禍で、参観人数の制限などがありますが、その時の状況に即して、できるだけ学校の取組についてご覧いただくようにしています。

2学期の学校公開では、「防災」をテーマとして2本立てで実施をしました。

①各学で防災に関する授業を公開する。

②児童、保護者に防災についての講演を行う。

	1校時 8:45~9:30	2校時 9:35~10:20	3校時 10:40~11:25	4校時 11:30~12:15
1年1組	国語 かん字のはじまり 教室	生活科 防災講演 体育館	生活科 ぼうさいにそなえよう 教室	算数 10よりおおいかず 教室
1年2組	国語 かん字のはじまり 教室	生活科 防災講演 体育館	生活科 ぼうさいにそなえよう 教室	算数 10よりおおいかず 教室
1年3組	国語 かん字のはじまり 教室	生活科 防災講演 体育館	生活科 ぼうさいにそなえよう 教室	算数 10よりおおいかず 教室
2年1組	国語 この間に何があった? 教室	生活科 防災講演 体育館	生活科 自然災害について 教室	算数 たし算とひき算のひっ算 教室
2年2組	国語 この間に何があった? 教室	生活科 防災講演 体育館	生活科 自然災害について 教室	算数 たし算とひき算のひっ算 教室
2年3組	国語 この間に何があった? 教室	生活科 防災講演 体育館	生活科 自然災害について 教室	算数 たし算とひき算のひっ算 教室
3年1組	音楽 斉唱、リコーダー奏 音楽室	算数 かけ算の筆算 3年生教室、算数ルーム	総合的な学習の時間 防災講演 体育館	社会 火事のない町をめざして 教室
3年2組	社会 火事のない町をめざして 教室	算数 かけ算の筆算 3年生教室、算数ルーム	総合的な学習の時間 防災講演 体育館	総合的な学習の時間 「Power Point」の基本的な使い方 教室
3年3組	社会 火事のない町をめざして 教室	算数 かけ算の筆算 3年生教室、算数ルーム	総合的な学習の時間 防災講演 体育館	音楽 斉唱、リコーダー奏 音楽室
4年1組	算数 わり算の筆算(2) 各教室	理科 閉じ込めた空気と水 教室	総合的な学習の時間 防災講演 体育館	総合的な学習の時間 防災について調べよう 教室
4年2組	算数 わり算の筆算(2) 各教室	音楽 合唱、リコーダー奏 音楽室	総合的な学習の時間 防災講演 体育館	総合的な学習の時間 防災について調べよう 教室
5年1組	外国語 He can bake bread well. 教室	体育(雨天:保健) 折り返しリレー 校庭(教室)	総合的な学習の時間 防災調査隊 教室	総合的な学習の時間 防災講演 体育館
5年2組	体育(雨天:保健) 折り返しリレー 校庭(教室)	総合的な学習の時間 防災調査隊 教室	図工 そとみてね、ひみつの景色 図工室	総合的な学習の時間 防災講演 体育館
6年1組	社会 今に伝わる室町文化 教室	理科 大地のつくりと変化 教室	算数 拡大図と縮図 教室、算数ルーム	総合的な学習の時間 防災講演 体育館
6年2組	国語 物語を作ろう 教室	理科 大地のつくりと変化 教室	算数 拡大図と縮図 教室、算数ルーム	総合的な学習の時間 防災講演 体育館
6年3組	図工 木と金属でチャレンジ 図工室	理科 大地のつくりと変化 教室	算数 拡大図と縮図 教室、算数ルーム	総合的な学習の時間 防災講演 体育館
日本語学級				日本語 日本語入門期 語い・文型 日本語学級

①各学級防災に関する授業を公開

右図の黄色の部分です。生活科、総合的な学習の時間、社会科、理科など、各学年で、年度当初に決めた年間指導計画で決めた教科、内容を行いました。通常の教師との対面型の授業や、話し合い活動、ICT機器を使った学習など、それぞれの内容にあった授業形態で行いました。



②児童、保護者に防災についての講演

前ページ、時間割の青い部分です。低中高学年に別れて実施しました。国土交通省荒川知水資料館・荒川下流河川事務所の方々に、演題は『荒川の水害と避難』で、以下のような内容をお話いただきました。

- ①荒川下流河川事務所の紹介
- ②川の話
- ③荒川って？
- ④普段の荒川
- ⑤台風が来ると・・・
- ⑥もし堤防が壊れたら・・・
- ⑦避難について考える
- ⑧もっと荒川を知る

資料には写真や動画、コンピュータグラフィック、ドローンの映像までありました。「台風が来ると・・・」では、2019年の台風19号を例にお話をいただきました。気象庁の衛星画像で台風の進路と時間の経過について、次に雨雲レーダーの変化、荒川の設置してあるカメラで水位の変化、最後に右写真の水位が上がっている荒川のドローン映像など、視覚的に分かりやすく説明をしていただきました。

また、児童が身近に考えることができるように、荒川堤防が決壊して、水害が起こった時のシミュレーション動画や、一之江小のまわりで水害が起こった時のシミュレーション画像など、ご準備いただきました。専門的な見地から詳しく、そして分かりやすくお話いただき、防災について学ぶ、大変良い機会となりました。



学習発表会実践報告 第1学年

1. 教科 生活

2. 単元名「こうずいにそなえよう」

3. 単元の目標

急な大雨・雷・台風などの激しい自然現象に対して、自分のおかれた状況を判断して、自他の身の安全を守る方法を身に付ける。

4. 防災教育との関わり

自分たちの住む地域の特徴を知り、川の氾濫を意識した急な大雨・雷・台風などの激しい自然現象に対する避難方法を考える。

5. 本時

(1) 目標

急な大雨・雷・台風などの激しい自然現象に対して、自分のおかれた状況を判断して、自他の身の安全を守る方法を身に付ける。

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点
<p>1 本時のめあての確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>◎おおあめがふったときに、みをまもるほうほうをかんがえよう。</p> </div> <p>大きな雷と大雨に見舞われた日のことを思い出し、個人の体験を共有する。新中川がどのような状態になっていたか想像する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体験を振り返ったり、友達の体験を聞いたりすることで、災害を自分の身近なものとして捉えられるようにする。 ・晴れた空の写真（10時）と黒い雲が出た空（11時）の写真を並べ、1時間という短い時間でも天気は急変することを伝える。 ・身を守る行動だけでなく、危険な行動についても考えることができるよう、発問する。 ・「自分は大丈夫」という油断や過信が、大きな事故に繋がるのだということを解できるようにする。
<p>2 大雨が降る前の雲の様子を写真で確認する。</p>	
<p>3 動画を見る。</p> <p>大雨、洪水に見舞われた町の様子や救助の様子などを見る。</p>	
<p>4 洪水から身を守る方法を考える。</p> <p>大雨が降る前、大雨が降ってきた時、雷が鳴っている時、雨が止んだ後など、場面ごと取るべき行動を考える。</p> <p>【降る前】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天気予報を見る。 ・雲の様子を見て、家に帰る。 	

<p>【降っている時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川に近づかない。 ・地下へ行かない。 ・洪水が起きそうだったら、高い建物に避難する。 ・丈夫な靴を履いて、避難する。 <p>【雷が鳴っている時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丈夫な建物に避難する。 ・木の近くに行かない。 <p>【雨が止んだ後】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・油断しない。 ・川に近づかない。 <p>5 学習のまとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族で避難方法を共有することが大切だと伝える。マイタイムラインを活用することで、日頃から災害に備えられることを知らせる。
---	---

(3) 評価

- ・天気の変化の様子を見て、自分や家族の身の安全を守ることに気付いている。

6. 授業の実際



直近の雷雨の様子を想起し、大雨が続いた場合にどのようなことが起こるかを考えた。

晴れていても急に天気が悪くなることを知り、自分がどのような行動を取ったらよいかを映像を見たり、話し合ったりすることで、水害から身を守る方法を考えた。



授業後に家族で、マイ・タイムラインを作成

- ・自分が住む地域がどのような場所に位置しているかを理解する手立てとなった。
- ・家族で避難するための準備や方法を考えたことで、水害への意識をもつことができた。

7. 成果

映像を見ることで自分たちの住む地域でも起こりうる災害であることに気づき、自然災害の怖さを知り、どのように備えるべきかを考える手立てとなった。

学習発表会実践報告 第2学年

1. 教科

2. 単元名「どきどき わくわく まちたんけん ～町のぼうさい・あんぜん～」

3. 単元の目標

地域のさまざまな場所を訪問したり利用したりする活動を通して、地域の場所と自分との関わりを見付け、地域にはさまざまな場所や自然、公共施設、安全のための標識や防災設備があることに気付くとともに、地域の場所に親しみを持ち、適切に利用したり、安全に気を付けて生活したりしようとすることができるようにする。

4. 防災教育との関わり

まちたんけんを通して、防災施設や防災設備、災害について自分たちの町について知るとともに一之江の町について愛着を高める。

5. 単元指導計画

時	内容 ○目標	防災との関わり ●防災教育の目標
1	<ul style="list-style-type: none"> ○学校や家の周りにはどんな施設や遊ぶ場所があるか知ろう。 ・自分たちの学校や家の周りで今までに行ったことがある場所を紹介し合い、「一之江マップ」を作る。 ・自分の町の「おすすめ」や「すてきなところ」を町探検を通して見付け、友達に紹介する学習をすることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自分の町の様子を知る。 ・新中川がある。(水害) ・環七通りがある。(交通事故)
2	<ul style="list-style-type: none"> ○町探検に出かける計画を立てよう。 ・学区域を大きく3つの赤コース、ピンク・オレンジコース、水色コースに分け、自分が行きたいコースを決める。 ・探検の約束事を確認する。 	
3	<ul style="list-style-type: none"> ○町のひょうしきや、ぼうさいせつびをしろーう！ ・安全を守るための道路標識や看板、災害が起こった時のために防災倉庫などがあることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●生活科教科書(新しい生活 東京書籍 p8) 防災施設・設備、道路標識が私たちの生活の役に立っていることを知る。
4	<ul style="list-style-type: none"> ○町探検に出かけよう。 ・赤、ピンク・オレンジ、水色の3つのコースに分かれて、町探検に出かけ、地域にどのような施設や場所があるのか、安全や防災についてどのような標識や施設、設備があるのかなどを見付ける。 	<p>防災</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害に備え、公園に防災井戸、備蓄倉庫、防災貯水槽などがあることに気付く。 <p>安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横断禁止、止まれなどの道路、標識や歩道橋などがあることに気付く。

5	○町探検をまとめよう。 ・スマイルノートやコラボノートで、発表したものを写真と文でまとめる。	●町探検で見つけた防災・安全の設備や施設がどこにあり、どんなものなのか詳しく調べ、まとめる。
6	○発表の準備をしよう。 ・発表で使うコラボノートを見ながら、発表原稿を作成する。	・コラボノートの町のマップに写真を張りつけ、場所について共有する。
7	○見つけたことをつたえあおう。 ・コラボノートの発表機能を使って、町の防災や安全を紹介する。 ・自分たちの住む町の防災・安全について考える。	

6. 本時

(1) 目標

町探検で見つけたことを交流する中で、地域には自分たちの生活と関わっている場所やもの、標識や防災設備がたくさんあることに気づき、それらを自分たちの生活に取り入れようとする。

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点
1 本時のめあてを確認する。 ㊦町のぼうさいやあんぜんについてくわしくなろう。	
2 赤色コースの発表を行い、どのようなものがあるのかを知る。 消火器、防災井戸、防災トイレ、防災倉庫、AED、標識など	○事前に発表するものについて、コラボノートを使って地図上にまとめ、写真を見せながら発表できるようにする。 ☆コラボノート、スマイルノートを使って、写真と文で探検カードを作成する。 （【知・技】情報活用の方法） ※思・判・表（発言・ワークシート） 町探検を通して、自分でまとめて発表できたことや、友達の発表のよさに気付いている。
3 ピンク・オレンジコースの発表を行い、どのようなものがあるのかを知る。 公衆電話、地図、自転車ナビマーク、防災貯水槽、標識など	
4 水色コースの発表を行い、どのようなものがあるのかを知る。 スクールゾーン、江戸川消防団、交番、防災井戸、カーブミラーなど	
5 自分たちの住む町の防災・安全について考える。 ・どのコースにも標識があるから安全に登校できている。 ・安全に過ごせているのは、標識や看板などがあるからだ。	

・災害が起こっても防災倉庫や防災井戸、トイレなどがあるから安心。

6 本時の学習を振り返る。

(3) 評価

町探検を通して、自分でまとめて発表できたことや、友達の発表のよさに気付いている。

7. 授業の実際



各コースのすてきを発表

水色コース・赤コース・ピンクオレンジコースに分かれて、まちで見つけた防災施設や防災設備、安全を守るためにある標識などを発表した。

- ・地図のどこにあるのか
- ・どんな役割があるのか
- ・どう生活に生かしていきたいか

上記の項目で文をまとめ、電子黒板に写真を投影しながら発表した。



各コースのすてきをワークシートにまとめる

発表を聞き、コースごとに「あったもの」「ここがすてき」をワークシートに個人でまとめた。その中で、「すてきだな」と思った防災施設や標識について取り上げ記入した。防災施設に関しては、「水色コースには、消防団の本部があるから安心」「赤コースには備蓄倉庫がたくさんある。家がたくさんあるからだと思う。」などとまとめていた。



自分たちの町のすてきを発表

各コースの防災施設や防災設備、安全を守るためにある標識などの発表を聞き、自分たちの住む町の防災・安全について考えた。児童からは、「火災があっても家のすぐ目の前に、消火栓や消火器が多く設置されていて安心。」「近くの公園に行けば、備蓄倉庫があって、食料や毛布があって安心。」などの意見が出た。

8. 成果

この学習を通して、防災設備・施設、標識、消防団の人々が自分たちの暮らしを守ってくれていることがわかった。児童は、自分の家の近くの防災設備・施設、標識を知り、災害が起きたときや普段の生活で安全に過ごすための行動を考えることができた。

防災マップ作製実践報告 第3学年

1. 教科 総合的な学習の時間

2. 単元名「地域安全マップをつくろう」

3. 単元の目標

子供が通学路等を点検して「犯罪が起こりやすい場所」（だれもが「入りやすく」、だれからも「見えにくい」場所）を地図に表す作業を通じ、不審者等の「人」ではなく、犯罪が起こりやすい「場所」に着目させる。

4. 防災教育との関わり

「入りやすい、入りにくい」「見えにくい、見えやすい」という4つの視点を持ち、通学路や、普段通る場所を改めて点検することで、子供の危険予知能力を高め、安全に行動できるようにするとともに、安全安心な街とは何かを考える。

5. 単元指導計画

時	内容 ○目標	防災との関わり ●防災教育の目標
1	◇事前学習① ○「地域安全マップ」について知る。 ・ したら犯罪や事件に会わないように生活できるかを考える。 ・ 「入りやすい、入りにくい」「見えにくい、見えやすい」という4つの視点を知る。	●危険な場所はどこか場所かをつかむ。 ・ 危険な「場所」は、見ただけで分かることを知る。 ※動画教材 「景色で学ぼう！ 新・地域安全マップづくりDVD」
2	◇事前学習② ○地域安全マップをつくる計画を立てる。 ・ フィールドワークを行うためのきまりを考え、計画を立てる。	●フィールドワークのために必要なことを確認し、準備をする。 ・ グループ編成をし、役割を分担する。 ・ コースを確認する。
3	◇フィールドワーク ○自分たちの地域について実際に歩いて調査を行い、必要な情報を集め、取捨選択して効果的に活用する。	●フィールドワークをする。 ・ 「入りやすいか」「見えやすいか」を基準に調査をする。 ・ 気付いたことをメモし、写真を撮影する。
4 5 6	◇地域安全マップの制作 ○フィールドワーク時の写真やメモを基に分類し、安全な場所、危険な場所とは何かを考える。 ・ 全体図のレイアウトを考える。 ・ 係ごとの作業内容を確認し、作業にとりかかる。	●分類するスキルを使って写真を分類する。 ・ 「入りやすい、入りにくい」「見えにくい、見えやすい」という4つの視点で、写真を分類する。 ・ 「～だから見えにくい。」「～だから入りやすい。」など、具体的な言葉を使ってまとめる。 ・ フィールドワークで発見した危険箇所、安全箇所等の写真を地図に添付する。

		※特定の個人名が分かる表札や、車両のナンバープレート等は黒塗りするなどして見えないようにしておく。
7	◇地域安全マップの発表 ○作った地域安全マップを用いて、発表する。 また、学んだことをどのように生活に生かしたらいいかを考える。	●地域安全マップを作製して、地域の様子を発表する。 ・作製した地域安全マップをもとに、安全な街にするために自分にできることについてまとめる。 ・学習を振り返り、「安全のための注意事項」について知る。

6. 本時

(1) 目標 地域安全マップをもとに、地域の様子を発表しよう。

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点
<p>1 ◇フィールドワークに行った時の、視点の確認をする。</p> <p>◇どのような場所が「安全」で、どのような場所が「危険」だったかを確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校は、正門が閉まっているので、誰もが<u>入りやすく安全</u>です。 ・この公園には、ごみが落ちていなくて、きれいな花が咲いているため、住んでいる人が<u>地域や人に関心がある</u>ので安全だと思います。 ・日付が過ぎたポスターが貼ってあったり、破れたポスターが貼ってある掲示板は、<u>地域の関心がなく、人の目がない場所だから危険</u>です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「入りやすい、入りにくい」「見えにくい、見えやすい」という4つの視点でフィールドワークに出かけたことを想起する。 ・「不審者がいたから、この場所は危険」などと、人ではなく「場所」に注目したことを確認する。
<p>2 ◇班ごとに、地域安全マップをもとに調査結果を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表、質問 <p>【質問】私はこう考えたけれど、どうして、Aの写真は「安全」ではなくて「危険」のですか。</p> <p>【答え】なぜかというと…</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「どの場所が危険で、どの場所が安全と判断したのか」その根拠を中心に発表する。 ・児童間で相互交流ができるよう、「感想カード」を配布する。

<p>3 ◇感想を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域には安全な場所と危険な場所があるので、安全な場所で遊ぶようにします。 ・友達の意見を聞いて、自分が見えやすいので安全だと思っていた場所でも見えにくく危ないこともあることを知りました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「危険」と思われる場所で、必ずしも犯罪や事件が起きたり、「安全」と思われる場所では、絶対に犯罪や事件がおきないというわけではない、ということを確認する。 ・周りの状況を判断する力、自分で自分の身を守ることの大切さを改めて指導する。
--	---

(3) 評価

地域安全マップをもとに、「入りやすい、入りにくい」「見えにくい、見えやすい」という4つの視点を持ち、具体的に地域の危険箇所や安全箇所を発表することができた。

8. 授業の実際



【フィールドワーク】

保護者の方に見守りをお願いして、通学など学校の近くを3コースに分かれて、フィールドワークを行った。「入りやすい、入りにくい」「見えにくい、見えやすい」という視点を持ち、写真を撮ったり、メモを取ったりして活動した。



【グループ発表】

班ごとに、作成した地域安全マップを黒板に掲示し、調査結果を発表する。

調査して初めて知ったこと、考えたことなど感想を発表するとともに、作成した過程において苦労した点や反省点等についても発表する。

7. 成果

「入りやすい、入りにくい」「見えにくい、見えやすい」という4つの視点を理解することで、通学路や、普段通る場所だけでなく、街のどのような場所が安全であるか理解を深めることができた。また、安全と考えられる場所には地域の目が行き届いていることから、地域の方々にも感謝の気持ちをもつことができた。危険予知能力を高め、安全に行動できるようにするとともに、安全安心な街とは何かを考えるきっかけになった。

学習発表会実践報告 第4学年

1. 教科 総合的な学習の時間

2. 単元名「一之江防災アクション！」

3. 単元の目標

自然災害から人々を守る活動について、過去に発生した東京都の自然災害について調べたり、今後想定される自然災害への様々な備えを理解したりして、自然災害から自身の安全を守り、自然災害の備えに取り組もうとする態度を養う。

4. 防災教育との関わり

「防災ノート」を活用し、身近な自然災害から自身の安全を守ることや、自然災害の備えへの関わり方、自分たちに何ができるかを考え、主体的に追究できるようにする。

5. 単元指導計画

時	内容 ○目標	防災との関わり ●防災教育の目標
1	○自然災害の種類を知る。 ・「防災ノート～災害と安全～」の動画を見て、災害の種類や特徴を見つける。	●「防災ノート～災害と安全～」の動画から、災害の種類（地震、大雨、台風等）を知り、特徴を確かめる。
2	○調べる自然災害のテーマを決め、学習計画を立てる。 ・自分が調べたい自然災害のテーマを選ぶ。 ・誰がどんなテーマを調べるか話し合う。	●自分たちで自然災害や、それへの備えを調べる計画を立てる。
3	○自分が調べるテーマについて、どうやって調べるか考えて学習を進める。 ・インターネットや本、防災ノート、マイタイムライン等、調べる物がたくさんあることを知る。	●防災ノートやマイタイムライン、ハザードマップ等、活用できるものが身の回りであることを知る。
4	○自分が調べたことをグループの中で発表し、何を伝えればよいか話し合う。 ・自分のテーマを基に、グループの友達に調べたことを発表する。	●友達が調べた自然災害や防災について知る。
5	○ポスターの割り付けを考え、下書きをする。 ・調べたことを効果的に伝える方法を考える。	●自然災害の特徴と防災という視点からポスターにまとめる。
6	○発表の仕方を考え、発表原稿をつくる。 ・自分がみんなに伝えたいことは何なのか考え、発表原稿を自分でつくる。	●自然災害や防災について、自分が伝えたいことを効果的に伝える方法を考える。

7	○学習発表会に向けて、発表練習をする。 ・グループごとに動画を撮って、確認する。	●効果的に伝える方法を工夫し、防災に関係する実物を使用しながら発表する。
8 9	○学習発表会で、発表する。 ○他のグループの発表を聞き、感想や学んだことをまとめる。 ・グループの発表を聞き、学んだことをワークシートに書く。	●ヘルメットや合羽、非常食等を示しながら、お互いの発表を聞いて、防災についての意識を高める。

6. 本時

(1) 目標

- ・東京都で起きた自然災害について理解する。
- ・今後想定される自然災害への備えについて理解する。

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点
1 グループごとに自然災害の発表を行う。 〈グループごとの内容〉 ①水害 ④台風 ②地震 ⑤雷 ③津波 ⑥大雪・あられ	・グループごとに各自作成したワークシートを配るよう指示する。
2 各グループの発表を聞きながら、ワークシートを埋める。 〈ワークシートの内容〉 ・東京都で起きた自然災害について ・自然災害から身を守るために備えるべきこと。 ・黒板に掲示したポスターの内容でみんなに知ってもらいたいこと。	・ヘルメットや合羽、非常食等を示して、家庭で備えるべきものを説明してもよいこととする。
3 学習カードに今日の振り返り及び感想を書く。	・今日の学習で大事だと思ったことや、これから備えていきたいことを書けるように、学習カードを配る。

(3) 評価

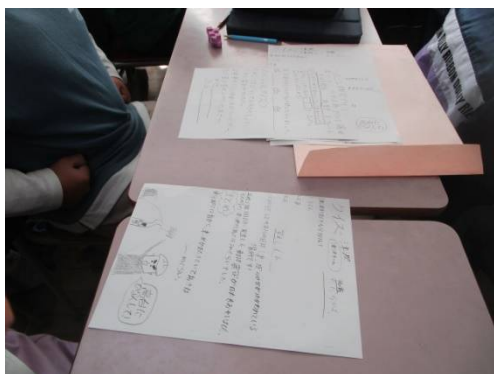
- ・東京都で起きた自然災害について理解している。(発表、ポスター、ワークシート)
- ・今後想定される自然災害への備えについて理解している。(発表、ポスター、ワークシート)

8. 授業の実際



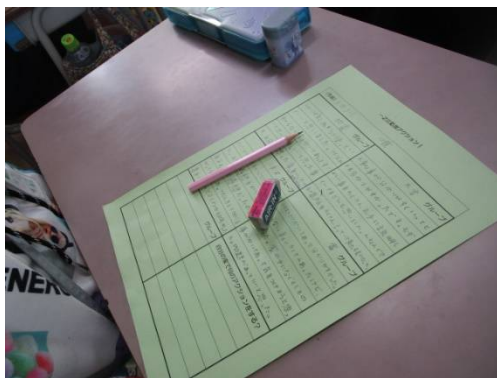
ポスター発表

各グループ、調べた内容をポスターに書き、発表しました。全員が活躍できるよう、分担しました。本番では、ヘルメットや合羽、備蓄用品など実物を見せながら発表するグループもありました。パワーポイントで画像や動画をみんなに見せながら、説明することもできました。



児童が作成したワークシート

各グループごとにワークシートを作成しました。クイズや穴埋めを入れることで、クラスのみんなが楽しく発表を聞くことができました。



学習カード

各グループの感想を学習カードに書きました。大切だと思ったことや、これからの生活に生かしていきたいことをまとめることができました。

7. 成果

この学習を通して、自然災害は身近に起こりうること、自然災害から身を守る方法や備えについて、理解を深めることができた。また、グループを6つの自然災害に分けたことで、それぞれの避難方法や備えに共通していることや、違いを比べられた。児童は、必要な情報を取捨選択しながら、他グループにポスターやワークシート、ICTを活用し、発表することができた。

学習発表会実践報告 第5学年

1. 教科 総合的な学習の時間

2. 単元名「防災調査隊」

3. 単元の目標

防災に対する関心を高め、進んで活動に取り組もうとする。自分で課題をもち、集めた情報を整理・分析して、防災に対する思いや考えをもつ。

4. 防災教育との関わり

荒川知水資料館の見学や消防訓練を通して、防災に携わる人々の思いに触れ、防災を自分事として捉えられるようにする。探究活動や表現活動を通して、自分たちの地域の実態や災害発生時の対処の仕方、備え方などを知り、実践しようとする態度を高めていく。

5. 単元指導計画

時	内容 ○目標	防災との関わり ●防災教育の目標
1 2	○身の回りの防災について知る。 ・これまでの荒川知水資料館の見学や消防訓練を通して学んだことを思い出す。 ・防災にはいろいろな内容があることを確認する。	●自分たちの生活に身近な防災について考える。 ・自分の経験や聞いたことのある話から、いろいろな防災の種類について深める。
3 5	○自分の調べるテーマについて計画を立てる。 ・自分の関心のあるものや学習したいテーマを決める。 ・具体的な内容をグループで話し合う。	●テーマを決め、防災について調べたい内容を考え、学習への見通しをもつ。
6 12	○テーマについて、調べる。 ・本やタブレット、おうちの人の話などから、必要な情報を集める。 ・グループでタブレットを活用することで、みんなで一つの資料を共有したり、保存したりしながら調べる。	●テーマによってどの情報源を活用するか、様々なものを比較しながら調べる。
13 18	○調べたことをもとに、まとめる。 ・どのような形態で発表するかを話し合い、まとめ方を決める。 パワーポイント 模造紙 劇 ・内容の順序や説明の仕方を話し合い、資料や原稿を作る。	●わかったことと、感じたことを分けて、自分の感想やこれからの防災との関わり方について話せるようにする。

<p>19 ・ 20</p>	<p>○テーマごとに発表をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台風 ・火災 ・避難所 ・地震 ・荒川と堤防・水門 ・家での備え ・ハザードマップ ・自助・救助 	<p>●グループの発表を聞いて学んだことや感じたことをまとめ、これからどのように自分の生活に防災を生かしていくか考える。</p>
------------------------	---	--

6. 本時

(1) 目標 防災について、調べたことを発表し合い、防災への意識を高めよう。

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点
<p>1 身近な防災について確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川の近くに住んでいるので、堤防や水門について関心があり学んできた。 ・家に非常用持ち出し袋がある。 ・地震や台風のとときの備えについてもっと知りたい。 ・ハザードマップに関心がある。 ・自分たちにできる防災について深めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災が自分たちの生活に深く関わっていることを感じられるようにする。
<p>2 グループごとに、調べたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台風 ・火災 ・避難所 ・地震 ・荒川と堤防・水門 ・家での備え ・ハザードマップ ・自助・救助 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとの発表の後に、内容の確認や感想を交流することで、学んだことを整理して分かりやすくする。
<p>3 学んだことや感じたことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃から備えることが大切だとわかった。 ・写真を見ることで実際の避難所の様子や避難所の工夫がわかった。 ・非常用持ち出し袋の中身を確認しようと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの生活に生かしていこうという意識を高める。

(3) 評価

自分たちの命や生活を支えるためには防災が大切であることを知り、防災への意識を高めることができた。

7. 授業の実際



8. 成果

これまでに学んだことを生かして、さらに学びたいことについて調べた。調べる方法も、インターネットだけでなく、本や動画、家族の話、パンフレット等を活用し、確かな情報や、わかりやすい情報を選ぶことができた。内容や伝える方法について工夫をすることができ、子供たちが主体的に学習に取り組むことができた。

友達の発表を聞くことで、自分にもできることがたくさんあることを知り、今できることに取り組もうという意識を高めることができた。

学習発表会実践報告 第6学年

1. 教科 総合的な学習の時間

2. 単元名「防災について身近な人に知らせよう」

3. 単元の目標

- ・防災について、自分で課題を見いだし、情報を集め、整理、分析して、まとめ・表現する。
- ・これからの防災について主体的に考え、実践していこうとする態度を養う。

4. 防災教育との関わり

江戸川区の地域性に関わる防災について考え、話し合うことを通して、パンフレットを作成した。それらの活動で学んだことを生かして、本単元では、実際に相手や目的に応じて内容や構成を考え、防災に関する発表を行い、防災について主体的に考え、実践していこうとする態度を養う。

5. 単元指導計画

時	内容 ○目標	防災との関わり ●防災教育の目標
1	○江戸川区の防災について話し合い、様々な取り組みがあることを理解する。 ・江戸川区の特色と防災についての取り組みを考える。	●「地域の防災」について話し合い、特性に応じて防災の取り組みが異なることを理解するとともに自身が生活する地域の防災の関心を高める。
2 3	○江戸川区の防災について話し合ったことを通して、パンフレットを作成し、友達に紹介することができる。 ・自身で課題を見いだし、パンフレットを作成する。 ・作成したパンフレットを友達に紹介する。	●「地域の防災」についてパンフレットを作成することを通して、「地域の防災」についての理解を深める。
4	○「防災」について課題を見いだすことができる。 ・防災について知っていることを話し合い、様々な災害に対する取り組みがあることを理解する。	●「地域の防災」について学んだことを生かして、防災についての基本的、基礎的な知識の理解を深める。
5 6 7	○課題を調べることを通して、様々な防災についての取り組みについて理解する。 ・防災についてグループで調べたり、話し合ったりする。 ・グループごとにテーマを考える。 ・調べて内容を相手に分かりやすく伝える工夫を考え、発表の準備をする。	●様々な防災について理解することを通して、具体的な取り組みや自身にできることを考える。
8 9	○発表を通して、防災についての理解を深め、実践していこうとする態度を養う。 ・グループごとに調べてまとめた防災について	●防災について、自分で課題を見いだし、情報を集め、整理、分析して、まとめ・表現する。 ●これからの防災について主体的に考え、実践

て、作成した資料を用いて発表する。 ・感想を交流する。	していこうとする態度を養う。
--------------------------------	----------------

6. 本時

(1) 目標

- ・調べたことを発表し合うことを通して、防災についての理解を深め、実践していこうとする態度を養う。

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点
1 学習のめあてや、発表者、聴講者の視点について確認する。	・発表の聞き方や伝え方、質疑応答の仕方を確認する。
2 グループごとに調べてまとめた防災について、作成した資料を用いて発表する。	・「防災」について様々な視点から考えていくことで、各テーマへの理解を深める。 ・発表の工夫について、それぞれが役割を果たしているか、表現の仕方は適切かを評価する。
3 感想を交流する。	・適宜、質疑応答の時間を設ける。

(3) 評価

- ・防災に基本的な知識を理解している。
- ・防災について見いだした自身の課題を解決し、実践していこうと考えている。

7. 授業の実際



グループ発表

班ごとに、作成した資料を提示し、調べてパワーポイントや模造紙などにまとめた内容を発表する。

調べたことだけでなく、発表の最後には防災について自分なりの新たな提案を行う。

8. 成果

- ・「防災」について、自分で課題を見だし、情報を集め、整理、分析して、まとめ・表現することで、基本的な知識を習得できた。また、発表し合うことを通して、「防災」を多角的、多面的に捉えることができた。
- ・自身の見いだした課題を解決することで、これからの防災について、6年生の立場で新たな提案を発信することができた。
- ・タブレット端末のプレゼンテーションソフトなどを活用し、これまでに身に付けてきたICTの技能を学習場面に生かすことができた。

一之江防災チャレンジを振り返って 成果と課題

○6年間の見通しをもち、効果的に学習をすることができた。

各教科に防災に関わっていた年間指導計画を再構築することで、今まで単発的に行なっていた学習が、効果的に行われるようになりました。

また、「防災」と一言でいっても、実は、学校で「防災」に関わる学習がたくさんあることを知りました。教科では、理科、社会科、図画工作科、生活科、総合的な学習の時間、そして、伝え合う学習として国語、ICTも活用しました。防災が他の学習と関連付けて学ぶことによって、子供たちの理解と意識が深まりました。

○防災への意識の高まり

この学習を進めていくにしたがって、江戸川区、一之江小学校の立地を考えると災害に備えなければならないことを知りました。今、私たちには災害への備えとして、「マイタイムライン」、「ハザードマップ」、「東京防災」などの資料が配られていますが、それらをしっかり活用し、準備をすることが大切であることが分かりました。

●持続的な学習

今年度の学習を通して、防災を柱にした学習は、本校の実態からも重要であり、学習としても多くの教科に関係して、それぞれの教科での学びを深めていく必要があります。今後も継続していくためには、改めて全学年の見通しと、各教科とのつながりを意識して年間指導計画を作成していく必要性を感じました。



最後に、この写真をご覧ください。これは8月24日に実施した一之江防災チャレンジで撮った記念写真です。ここには、役所、消防署、PTA、地域、学校と多くの方々がいらっしやいます。このように今年度の学習は、多くの方々に支えられて実施することができました。今後も学校が起点となり、地域とともに防災教育を進めてまいります。

おわりに

副校長 鈴木 宏美

本校は、「2022年度防災教育チャレンジプラン」実践団体として、1年間、学校教育の中で日常的に行っている防災教育に取り組んでまいりました。これまでの教育活動の中から防災に関わる事項を関連付けて、全学年で取り組むことで、児童の意識が高まり、いざという時に備えて、学びが深まったと感じます。また、地域の方々との連携についても、新型コロナウイルス感染症の感染状況をにらみながら、できることを模索し、歩みを進めたことは、今後のためにも大きな一歩が踏み出せたのではないかと感じております。この度、防災教育チャレンジプランに参加する機会をいただいたことは、本校にとって、貴重な経験となりました。学校における教育活動の中で、防災教育の可能性が、大きく広がってきたことが実践を進める中で分かってまいりました。

最後に、実践を進めるにあたって、年間を通して多方面からご支援、連携をいただきました東京消防庁江戸川消防署 災害対策調整担当課の皆様、江戸川区教育委員会危機管理部地域防災課の皆様、地域の消防団の皆様・PTA本部役員の皆様に厚く御礼申し上げます。

【ご支援いただいた方々】

○東京消防庁 江戸川消防署 警防課 係長 大塚 昌夫 様

○江戸川区 危機管理部 地域防災課 防犯防災係 関 正太郎 様
片倉 旬平 様

○一之江小学校 PTA会長 綱井 桃江 様

【防災チャレンジプランに携わった教員】

◎推進担当 ○学年主任

校 長 伊藤 秀一

副 校 長 鈴木 宏美

1年1組 ○小池 朋子 1年2組 馬木 智子 1年3組 近藤日香里

2年1組 ○関口 敏子 2年2組 高須 彩乃 2年3組 松下 佑奈

3年1組 ○新井 沙紀 3年2組 長田 周 3年3組 山田 千裕

4年1組 ○境澤 幸倫 4年2組 中谷亜衣梨

5年1組 ○上田 功司 5年2組 高橋 淳子

6年1組 ○内田 雅之 6年2組 古野日香里 6年3組 渋谷 将男

音 楽 町田 美咲 ◎図画工作 伊藤 貴光 算 数 長谷川直哉

養 護 並河ちひろ 日 本 語 ○末永 淳子 日 本 語 阿南宗四郎

